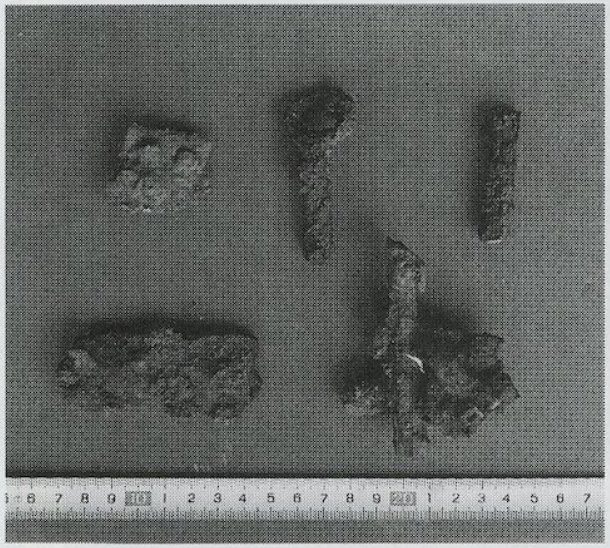
ふるさと資料紹介 ㉑

土の中からのメッセージ(5)

三世紀から四世紀にかけ、西日本では前方後円墳など巨大な墓の築造が始まり、その後急速に分布を拡大していきました。岐阜県でも西濃地方から岐阜市北部、可児市など、東山道（とうさんどう）に沿うようにその分布を見ることができます。

市域ではこの頃の前期の古墳を確認することはできませんが、横穴式石室と須恵器（すえき）などの副葬品を特徴とする後期古墳（六世紀以降）は市内でも多く現存しています。山之上町内には円形の古墳（円墳）が数多く点在しています。古墳の多くは低地を見下ろす形で、山や丘陵の斜面や頂上部に築かれています。



墳墓の中には数々の副葬品が納められました。左上の写真は若狭古墳（山之上町中之番）から須恵器（大陸から伝えられた製法で、非常に硬く焼かれた灰色の焼き物）などとともに出土した鉄製の馬具です。副葬品は、葬られた人物の身分、当時の文化や社会、築造の年代を知るうえで重要な資料となります。

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

（平成四年七月分）

○牛乳輸送缶、手回しキリなど
七点
（森田茂一さん／加茂野町）

○タワラアミなど 六点
（大沢亨さん／太田町）

○馬用の鞍、牛馬用マンガなど
十二点
（大野公夫さん／山之上町）

○籾（もみ）すり機 一点
（大野尹さん／山之上町）

○弥生土器 一点
（安藤正義さん／各務原市）

近い将来の博物館建設に向けて情報や資料を集めています。資料は見せていただくだけでも結構ですので、市社会教育課（内線362）まで情報をお寄せください。